

学長の業績評価について（中間評価）の評価コメント

平成27年10月

学長選考会議

学長の業績評価について（中間評価）の評価コメント

評価項目	評価コメント
総 評	<p>○国の大学改革政策とも相まって、本学でも改革がドラスティックに進められようとしているが、学長が諸方の意見を聞きながら、リーダーシップを発揮しようとしていることは評価できる。役職者だけでなく、末端の教職員が志を同じくできるよう、一層の意識改革やコミュニケーション充実をお願いしたい。</p> <p>○就任以来予想を上回るスピードで教育改革・組織改革を進めており十分リーダーシップを発揮している。ただ本学は従来から教育・研究ともに理系は充実しているが、人文・社会系は相対的に小さい。理系だけで良い学生を育てるには不十分であり、全学教育にとっても好ましいことではない。是非文理両面のバランスの取れた改革を進め、優れた人材を育成して欲しい。</p> <p>○学長が行った「茨城大学学長評価報告書」の内容だが、従来にもない明確なビジョンを掲げて精力的に取り組んでおり、しかもできるだけ開かれた形でそれらを具体的に進めていると判断される。特に「IU学長だより」などの報告にみられる内容は学長自らが月1回のペースでまとめ、本学一体となって大学改革を積極的に行おうとしている姿が見て取れる。学長選考会議が掲げる望ましい学長像にマッチした取り組みを重点的に行っており十分な成果が得られているものと認められる。今後はそれらの成果が学生の就職状況や教職員の研究成果の発表状況など具体的な形で評価できるようになることを期待している。期待する程度を大幅に上回った。</p> <p>○期待する程度を上回っている。今後は、COCの実現に向かって、更なるリーダーシップを発揮されることを期待する。</p> <p>○就任1年目から精力的に取り組んでいる。期待する程度を上回っている。今後はさらに大学改革を進められることを期待する。</p> <p>○地域からの信頼度が高まっている。学生が明るくなり、地域社会へ出ていくケースが増えたと思う。さらなる活性化、元気な学生を育てて欲しい。</p> <p>○明確なビジョンのもとで、改革のリーダーシップを発揮されており、期待する程度を上回っている。今後、改革を加速、定着させていくために、学内での透明性を高め、問題意識を共有して意識改革を進める一層の努力をお願いしたい。</p> <p>○期待する程度である。茨城大学は他大学に比べて、改革がかなり遅れているので、今後は、学長の強いリーダーシップのもとで、大学改革を一層進めることを期待する。</p> <p>○改革にスピード感が出てきたことは高く評価できる。これまであまり改革を進めてこなかった茨城大学にとって、まず前へ進むこ</p>

	<p>とが重要である。ただ、特に教育改革にとっては形式的な改革になる危険性もあるので、学外の要求に応えることに加え、学内での議論を大切にして改革を進めて頂きたい。第3期だけではなく長期的な展望を意識して頂きたい。</p> <p>○この1年間の茨城大学の改革は目覚ましく、「茨城学」の講義をはじめ、各種の施策が実行に移されていることを実績として高く評価する。より一層の努力のもと「地域創生の知の拠点となる大学」を確かなものとされたい。</p> <p>○期待する程度である。学長着任以前から大きく遅れている大学改革について、どうしてそのようになったかの検証、分析が全く行われていない。前大学執行部の問題をそのまま引き継いでいる懸念がある。第3期中期目標策定にあたっては、第4期以降も持続可能な大学運営を強く意識した方が良い。</p>
教 育	<p>○「たくましい茨大生」の育成の目標のもと、効果のある施策が多角的に推し進められている。更なる実績づくりが望まれる。</p> <p>○全学（教養）教育及び学部並びに大学院教育の、それぞれとの連携に配慮した一貫教育を大規模な組織改革とともに進めているのは評価できる。</p> <p>○優れた学生を創出するための教育改革については相当の前進がみられるが、今後も学生のバイタリティを高めるため教育、気力、体力、知力、創造力を高めるための教育に積極的に取り組んで欲しい。特にアクティブラーニング、地域志向教育、国際プログラムの強化に期待している。</p> <p>○クォーター制の導入にあたっては、現状のセメスター制の課題等を十分に抽出して、その問題点を解決する方向で慎重に議論を進めた方が良い。GPAの活用、CAP制の見直し等についても同様である。教育改革は、第一義的に学生の目線に立って行われるべきである。そのためには、現状分析、学生に対するアンケート等が欠かせない。</p> <p>○全学教育機構の設置やクォーター制の導入など、積極的に教育改革を行おうとしている姿勢は評価できるが、何故、このような改革をする必要があるのか、学生にとってどのように良いことがあるのか、学内への説明が不足しているように思われる。また、学生に意見聴取するなど学生の立場になった教育改革のスタンスが必要である。</p> <p>○目標に向かって進んでいる。体系的・組織的システムの構築をはじめ、地域志向教育も『茨城学』開講など具体的取組がみられる。高校との連携も意欲的である。</p> <p>○学生本位の教育を行うための組織・システム改革は、進められつつある。現場教員とのコミュニケーションを十分に図り、改革の意図を徹底し、実効性ある改革を期待したい。</p> <p>○茨城大学の教育目標としてディプロマポリシーを策定したので、今後は具体的な教育改革を進めて欲しい。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3つのポリシーが制定され、教育改革の方向が示されたことは評価できる。ポリシーに示された理念の実現に向け、教育内容の一層の充実、学生に対する支援の強化など図って頂きたい。 ○ 教育改革の方向性については共感できる。大きな枠組みができてきた。今後は、地域を支える人材養成に向けて、より実質的な改革を進めて欲しい。その際には、改革の目玉（クォーター制、アクティブラーニングなど）に対しても、より実質的な検討を進めて頂きたい。
<p style="text-align: center;">研 究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茨城大学が掲げて立つところを認識し、強みや特色を前面に出して行こうという姿勢が良い。 ○ 二十年来採用を進めてきた教員の成果が出てきている。今後もよい人材の採用に努力して欲しい。 ○ 高度専門職の採用など、外部資金獲得の取り組みの今後の効果が期待される。茨大の特色、強みを出すとともに外部との連携の強化も重要である。 ○ 学長就任以来、教育に関する改革が表に出てきているが、研究面に対する方針が見えてこない。教育と研究は大学改革の両輪である。研究面で茨城大学として、どのように特化し、どのようにプレゼンスをあげようとしているかの方針を学内外に示す必要がある。 ○ 教職員の意欲や能力を高めるための努力をされているが、大学のビジョンである地域創生の拠点となる大学、その中で世界的な強み、特色の輝く大学とするためには教職員の一人一人がそのことを十分に理解し、全学的に盛り上げていくことが今後も重要であろう。 ○ 一部に取組や成果が顕著な研究があるものの、全体的には研究に立ち向かう志気やパフォーマンスが低下しつつあるように感じられる。研究エフォートを上げられるような条件作りが求められる。 ○ 茨城大学の研究成果の発信強化と社会への実装化に取り組んで欲しい。 ○ 部局を越えた連携による研究をグローバルに、又、地域研究機関と共に行う方向性は良しとするが、単年度ごとに研究成果を社会に示すことも必要である。 ○ 強み、特色のある分野の顕在化ということならば、量子線科学等世界的な研究を進めていくことも大切だが、より地域に直接的に還元できる研究も大切である。 ○ 外部からの競争的研究資金受け入れに力を入れて欲しい。 ○ 新しいサバティカル制度の導入は評価できる。学内の競争的資金（設備更新等経費、教育研究特別設備費等）の配分にあたっては、その結果に至った理由等について透明性をもって学内に説明した方が良い。

<p>地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自前主義を脱し、県をはじめとする自治体及び企業と協働による研究、開発を実行し、その成果を県民に提供することが、地域の知の拠点づくりとなる。 ○COC事業を核に積極的に地域との連携を試みている。大学高専コンソーシアムの実践ほか、図書館を活用した地域との連携事業の展開、『まち・ひと・しごと創生戦略』にも積極的に取り組んでいる。 ○COC事業に加えCOC+事業に新たに採択され、これらを推進することにより地域密着型の教育を展開して欲しい。 ○積極的に地域組織との連携を図って、活動を進めて頂きたい。 ○茨城大学に対する地域からの強い期待に応えるとともに、学生にとって現実社会と向きあって、具体的な問題の解決を自ら考えていく経験は勉学の大きな動機づけとなり、その意義は大きい。そうした活動を県内で更にアピール（広報）して欲しい。 ○社会連携センターを設置して、地域連携の窓口を一本化したにも関わらず、その役割を十分に担っていない。 ○COC事業関連の取り組みが強化され、従来閉じこもりがちであった大学の姿が地方自治体や企業、研究機関等に目を向けた大きな動きとなっているが、さらに地域から期待される大学となるよう一層の努力を期待する。 ○COCに加えて、COC+も採択になったと聞いている。日頃の努力の成果が出たと評価できる。 ○地域の知の拠点という発想は、茨城大学にとって特に大切な側面であり、その方向性を強めていくことは高く評価できる。今後もより強化して欲しい。 ○COCだけでなく、COC+を目指す取組が、国の地方創生ともマッチして、地域連携活動は進展している。社会連携センターと学部との関係をもう一段明確にし、より効率的・効果的に活動が進むことを期待する。 ○学生や教員が積極的に地域に出て活動している点は評価できるが、このことと社会連携センターの活動とリンクしておらず、地域の方からは、はっきり見えてこない。地域へのアピール不足という課題は依然として解決していない。
<p>国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの実績を生かすとともに、更に国際ネットワークの形成が進むなど、国際交流は茨城大学のアピールポイントとなっている。一方で他の大学も国際交流に力を入れて来ており、今後も着実な進展を期待する。 ○留学生を増加させるために、経済的支援はもとより、留学生が茨城大学で学びたいという気を起こさせるための教育・研究両面でのアピールなど全学的な取り組みを、リーダーシップをもってやって頂きたい。 ○国際戦略室による今後のグローバル展開を期待する。

	<ul style="list-style-type: none"> ○海外協力校の増加や、日本・ベトナム大学設立への参加は画期的である。さらなる国際ネットワークの広がりを期待する。 ○国際戦略室を新設し、国際化を推進する意図と姿勢は評価できる。また、学生の海外留学経費負担軽減措置により、出ようとする学生が増えることが期待される。 ○従来あまり感じられなかった教育研究の国際化が、少ない経費の中でも徐々にではあるが推進されており、国際的な視野を身につけた学生の創出に大いに必要な取り組みと期待している。 ○国際戦略室のような組織強化のみならず、国際化、グローバル化を視野に入れ、新しい観点からの人材雇用、資金面も含めた積極的な留学支援を展開しているのは大変良いことである。 ○特にアジア諸国からの留学生受け入れを推進して欲しい。 ○留学生を増やす方策については、経済的支援等を含めて早急に企画立案する必要がある。 ○学長のこれまでの研究成果を茨城大学のリーダーシップのもと、アジアモンスーン地帯の各大学の研究者や学生との共同研究などを行う様々な提言などをすることを検討されたい。 ○TOEICの全員受験をはじめとする英語教育の強化は高く評価できる。
<p>大学運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大学執行部には、学長以外に理事、副学長、学長特別補佐、執行部スタッフが合計で13名もいるが、その役割分担等が明確になっていない。それぞれの業務の結果説明を十分に行った方が良い。意見交換会が各部門、学生等で行われているが、その場で行われた意見等が全学的に全く共有されていない。 ○運営費交付金の減少に伴い、今後外部資金獲得が必要になることから何らかの対策を立てて欲しい。 ○鋭い分析と論点の整理を含め大局観のある、巧みな組織運営を行っているとは評価できる。これから学部を始め各論の抵抗が予想されるが、今後も理にかなった運営を展開し、実りある成果をもたらして頂きたい。 ○ガバナンス改革については、改革が進むにしたがって管理過剰になる危険性を孕んでいる。大学の柔軟性を維持できるような改革を進めて頂きたい。また広報活動の強化は非常に重要である。 ○学長の大学運営・改革に取り組む意欲は評価できる。学長は、日々の活動で構成員からの厳しい目に晒されているが、一方で、大学執行部を構成する理事、副学長、学長特別補佐、執行部スタッフの活動については、構成員の目には、その業務内容も含めて、はっきりと見えてこない。学長として、大学執行部のメンバーの業務内容とその業務評価を学内外に十分に説明する必要がある。 ○予算がますます厳しくなっていく中で、開かれた大学運営の体制を作りながら様々なガバナンス改革が進められており、今後も一層充実されることを期待する。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○学内コミュニケーションが目に見える形で広がった。さらなる努力を期待したい。○大学改革を積極的に進めようとしている姿勢が評価できる。○学部教員や学生を含めて、積極的にコミュニケーションを取り、出された意見を基に改革、改善を図ろうとしており評価できる。○改革を進めるための体制の強化が図られていると評価できる。○入試改革などを踏まえ、質の高い学生を獲得する制度を具体化し、早々に実行する必要がある。 |
|--|

学長選考会議委員（学外委員は五十音順）

小田部 卓

久保田 益充

種田 誠

宮下 清貴

柳生 修（議長）

山口 やちゑ

佐川 泰弘

生越 達

折山 剛

馬場 充

久留主 泰朗

佐藤 和夫